

下北から日本

の未来を探る

弘前大学大学院地域社会研究科
平成30年度

公開セミナー

2018.11.10^土→2018.11.11^日

受講
無料

地域の社会人を対象とした大学院レベルの
高度専門プログラム

「下北から日本の未来を探る」をテーマに、「講義」と「エクスカージョン」を通じて各講師の視点から地域課題に着目した2日間の公開セミナーを実施いたします。地域の活動をされている方、地域課題に取り組んでおられる方にとっては知見を広げる良い機会となっております。是非、ご参加ください。

Schedule

2018.11.10^土 講義×エクスカージョン

講義① 14:00～(60分)

脇野沢の「小さな拠点」
から未来を展望する

講師：平井 太郎 (地域社会研究科・准教授)

講義② 15:10～(60分)

下北ジオパークの
ジオサイトから地球を学ぶ

講師：小岩 直人 (教育学部・教授)

16:20～(70分)

エクスカージョン

講師とともに脇野沢周
辺を巡ります。

交流会 19:00～

場所：プラザホテルむつ
(むつ市下北町2-46)

※参加費等については受講者決定の後、
メールにて詳細をご連絡いたします。

2018.11.11^日 講義×相談会

講義③ 9:30～(45分)

「青森型地方創生サケ」を
考える-アグリ・食を中心に-

講師：内山 大史 (地域社会研究科・教授)

講義④ 10:15～(45分)

北日本の水産資源を
活用した地域振興

-津軽海峡が「ルミドリ」(食通回廊)の提案-

講師：福田 覚 (地域戦略研究所・准教授)

講義⑤ 11:10～(60分)

下北地域産農林水産物の
栄養・機能性

講師：加藤 陽治 (教育学部・特任教授)

12:10～
(20分)

相談会

全講義終了後、相談会を実施し
ます。地域活動や大学院地域社
会研究科への進学等についてご
相談ください。

場所 11/10 (土) 脇野沢公民館 (地域交流センター) 集会室
(むつ市脇野沢渡向107-1)

※1日目はプラザホテルむつからバスで脇野沢公民館へ移動します。12:00までに
プラザホテルむつ駐車場へお集まりください。(お車でお越しの方はプラザホテ
ルむつ駐車場(無料)をご利用いただけます。)

※お車等にて直接、脇野沢公民館へお越しの方は講義開始時間までにお集まりくだ
さい。また、その際は、各自駐車場の手配をお願いいたします。
※脇野沢での講義およびエクスカージョン終了後、バスにてプラザホテルむつへ戻
ります。

11/11 (日) プラザホテルむつ 2階プラザドーム
(むつ市下北町2-46)

対象 地域の社会人、自治体関係者、教育研究関係者、地域おこし等
地域で活動する団体・NPO等関係者
※大学院レベルの研究分野に興味がある方

定員 30名

※申込み多数の場合は先着順となります。
※2日間受講いただける方を優先します。
※受講の可否については後日お知らせいたします。

申込み 申込み締切日 2018年 9/21 (金)
受講ご希望の方は、裏面をご覧ください、
FAXまたはメールにてお申込みください。

問合せ 弘前大学大学院地域社会研究科
TEL: 0172-39-3960 FAX: 0172-39-3961
E-mail: jm2112@hirosaki-u.ac.jp

各講義等内容は裏面をご確認ください。▶▶▶

2018.11.10 (土) 講義×エクスカーション

【講義①14:00~15:00】平井 太郎 (地域社会研究科・准教授)



脇野沢の「小さな拠点」から未来を展望する

むつ市脇野沢地区では2018年4月「コミュニティセンター脇野沢温泉」がオープンした。特筆すべきは、先立つ1年間に計15回、住民と市関係部署によるWSが重ねられたこと。数々の難題を途中、全国から集まったインターンシップ学生の手も借りながら1つずつクリアすることで、あらためて住民の絆が紡ぎなおされ新たな人材も掘り起こされ、温泉を支え盛り上げる住民組織が立ち上がった。これこそ現在、全国で求められている「小さな拠点」のあるべき姿であり、その真価が今後まさに試される。

エクスカーション
【16:20~17:30】

講義①②を受講後、講義でふれたコミュニティセンター脇野沢温泉等を講師とともに、巡ります。解説を聞きながら、活発な意見交換をし、理解を深めましょう！

視て
感じて
考える

【講義②15:10~16:10】小岩 直人 (教育学部・教授)



下北ジオパークのジオサイトから地球を学ぶ

ジオパークにおいて地質や地形のみどころとなる場所は「ジオサイト」と呼ばれるが、本講義では、下北ジオパークのいくつかのジオサイトをとりあげ、各ジオサイトの、地球の歴史の中での位置づけを意識しながら、そこでみられる地質や地形の成り立ちや意義、下北の人々の生活との結びつきについて、パンフレットや解説書には書かれていなかった(書ききれなかった)深い内の解説を行う予定である。さらに、これらをふまえて、今後の下北ジオパークの課題について考えてみたい。



2018.11.11 (日) 講義×相談会

【講義③9:30~10:15】内山 大史 (地域社会研究科・教授)



「青森型地方創生サイクル」を考えるーアグリ・食を中心にー

青森県が有する豊かな農林水産資源を活用し、雇用の創出と所得の向上を図り、若者の地元定着・転入者を増加させ、まちに賑わいと活気呼び戻す。「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を中心とした地方創生関連施策を概観した上で、知を結集し、イノベーションの創出と人材育成を通じて地方創生を先導する取組みについて解説する。



【講義④10:15~11:00】福田 寛 (地域戦略研究所 食料科学研究部門・准教授)

北日本の水産資源を活用した地域振興ー津軽海峡グルメコリドール(食通回廊)の提案ー



北東北ならびに道南地域(津軽海峡圏)の連携強化による地域振興に取り組んでいる。近年「作れば(獲れば)売れる」時代の終焉ならびに水産物の価格低下による収益悪化が顕著となり、新たな水産物の価値の創出が切望されている。この課題解決の取組みとして地域の水産物を活用した「海の幸 下北プラッター」を開発し、新たな水産物の価値の見せ方とともに、例えば「津軽海峡グルメコリドール(食通回廊)」といった考え方を提案している。



【講義⑤11:10~12:10】加藤 陽治 (教育学部・特任教授)



下北地域産農林水産物の栄養・機能性

地域経済の創生のひとつに、地元産農林水産物の活用が考えられる。青森県は三方を海に囲まれ、四季折々の豊富な農林水産資源に恵まれており、特徴的な栄養・機能性を有する食品素材が沢山ある。下北地域の農林水産物が有する栄養・機能性について、及びそれを活かした調理・加工技術による食材の利用・活用法を紹介する。

【相談会12:10~12:30】

全講義終了後、相談会を実施します。地域活動や、地域社会研究科進学等についてご相談ください。



受講申込書 平成30年度公開セミナー 「下北から日本の未来を探る」

受講ご希望の方は、本申込書をFAXでお送りいただくか、下記内容をメールにてお申込みください。

申込み締切日

お申込み先 FAX 0172-39-3961 / E-mail jm2112@hirosaki-u.ac.jp

2018年 9/21 (金)

1. 受講者について

ふりがな 氏名		
会社名等		
部署・役職等		
連絡先	TEL	
	E-mail	

2. 受講の希望日について○をお願いします。

受講希望 該当へ○	希望日	内容
	両日 11/10,11	11/10 講義①②およびエクスカーション 11/11 講義③④⑤および相談会
	1日目 11/10のみ	11/10 講義①②およびエクスカーション
	2日目 11/11のみ	11/11 講義③④⑤および相談会

3. 交流会(11/10)への参加についてお知らせください。

参加 ・ 不参加 (該当へ○をお願いします)